

平成 30 年度第 1 回熊野市総合教育会議会議録

1. 日 時 平成 30 年 5 月 24 日（木） 午後 3 時 30 分から

2. 場 所 熊野市役所 2 階 第 1 会議室

3. 出席者 熊野市長 河上敢二
熊野市教育委員会
倉本教育長 大久保委員、高見委員、北野委員

4. 事務局関係

教育委員会事務局

岡本総務課長、楠学校教育課長、濱中社会教育課長

太田総務課長補佐、小瀬総務課庶務係長

市長公室

松岡市長公室長

総務課

尾中総務課長

5. 事 項

(1) について

岡本総務課長 定刻になりましたので、ただいまから平成 30 年度第 1 回熊野市総合教育会議を開催いたします。本日の司会進行を務めさせていただきます、教育委員会 総務課長の岡本でございます。よろしくお願いいたします。お手元の事項書に沿って進めさせていただきます。

最初に、総合教育会議 開催にあたりまして、河上市長からご挨拶をお願いいたします。

河上市長 教育委員の皆様には、お忙しい中、平成 30 年度第 1 回目の総合教育会議ご出席賜り誠にありがとうございます。

また、日頃より当市の教育行政の推進について、ご尽力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

昨年度は、熊野市教育大綱に基づき、重点施策 6 項目をはじめ、様々な事業に取り組んでまいりました。

熊野市教育大綱は平成 27 年度から平成 31 年度の 5 年間の取組の方向を定めており、今年度で 4 年目の取組となります。改めて、これまでの取組を検証し、しっかりと課題を洗い出し、平成 30 年度における取り組みに繋げていく必要があると考えております。

平成 30 年度の重点施策につきましては、新たな項目として「保護者や地域との連携」を含め 5 項目、お示しさせていただいております。

「学力の向上の推進」においては、新たに I C T 教育の推進について、大学などと連携した施策を講じていく計画となっております。

また、昨年度まで、重点施策としておりました、いじめ問題をはじめとした「豊かな心の育成」や防災教育を中心とする「安全安心な学校環境づくり」につきましては、ある一定の方向性ができたことから、保護者の皆様や地域の皆様との連携を強化することで、さらにその内容をよりよいものとするため、「保護者や地域との連携」を重点施策の一つとしてあげさせていただいたところでございます。

平成 28 年度より全国でもトップクラスの子育て支援策の一つとして実施しております、「こどもは宝・未来への希望基金」による様々な子育て支援事業の効果についても、しっかりと検証し、子ども達の安全安心はもとより、子育てしやすい環境づくりについても継続して行ってまいりたいと思っております。

社会教育の分野におきましては、今年度、全国高等学校総合体育大会が三重県を中心に開催され、本市においても 8 月 2 日から 12 日までの間、女子・男子のソフトボールの試合が開催される予定となっております。大会開催にあたっては、地元高校生のみなさんをはじめ、関係団体の皆様のお力をお借りし、選手や観客の皆様の印象に残る大会にしていきたいと考えております。また、平成 33 年度には国民体育大会も控えております、市民の皆様のご協力のもと、市全体で機運を高めていく取組を行っていきたいと考えております。

本日は、忌憚のないご意見をいただき、より効果的な取組に繋げていきたいと考えておりますので、なお、一層の解ご協力を賜りますようお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。

岡本総務課長

ありがとうございました。本日は、糸川委員より欠席のご連絡をいただいております。

お手元に配布の、資料の確認をさせていただきます。資料は 3 種類です。本日の事項書、平成 30 年度 第 1 回 熊野市総合教育会議と記載しているものと資料と記載しているものです。よろしいでしょうか。

それでは、事項書 2 の (1) 平成 29 年度 主な重点施策の成果と課題について、に移らせていただきます。表紙を 1 枚めくっていただきたいと思っております。熊野市教育大綱をまとめたものでございます。ご覧のとおり、6 つの大きな施策からなっており、平成 29 年度は、

これらの施策のうち、主な重点施策として、学校教育から2ページ3ページになりますが、重点施策1 学力向上の推進、2 豊かな心の育成、3 安全で安心な学校環境づくり 青少年健全育成から、4 ページの重点施策4 子どもの読書活動の推進 生涯学習から重点施策5 生涯学習環境の整備、5 ページになりますが、生涯スポーツから、重点施策6 生涯スポーツの普及と促進の6 点をあげ、取り組んで参りました。これらの重点施策の成果と課題につきまして、報告・説明させていただきます。まず、学校教育関係の重点施策1 から3 までをご説明いたします。

重点施策1 の学力向上の推進についてですが、資料につきましては、1 ページから3 ページです。こちらの資料は、平成29年度と平成30年度の内容が混在したものとなっております。

重点施策1 学力向上の推進の目指す姿は、恒常的に授業改善に取り組み、それぞれの力量を高め合おうとする職員組織。目標を持って授業に臨み、深い学びと自己の変容を実感している児童生徒であります。指標につきましては、全国学調質問紙の「めあての提示」と「振り返りの実施」の項目について、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、前年度比プラス1%以上としております。成果と課題であります。ご覧の表のように、平成29年度の指標については、達成することができませんでした。ただし、対象が同一児童生徒ではないため、あらためて平成30年2月に、同一児童生徒に同じ内容のアンケートを実施した結果、小学校、中学校ともに大きく改善いたしております。課題等でありませけれども、「地域未来塾」や「グローバル体験事業」などでは、参加した子どもたちから、学ぶ楽しさを実感する声が多く聞かれました。今後は、事業への参加者を増やし、内容をより充実したものにしていくかが課題であるとなっております。

次に3ページに入らせていただきます。重点施策2 豊かな心の育成であります。資料につきましては、5ページであります。目指す姿は、いじめを決して許さない児童生徒。ふるさと熊野市を愛し、誇りが持てる児童生徒。指標といたしまして、小中学校におけるいじめ認知件数を0件といたしております。成果と課題につきましては、いじめ認知件数は23件であったが、すべて解消済みとなっております。次に「いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、各委員に学校や教育委員会の取組や現状について理解していただくとともに、地域や各団体との連携が重要であることを確認しました。いじめの問題を含むアンケートを児童生徒・保護者・評議員に行い、いじめへの対応に活用しました。ただ、アンケートからは事案を特定できないケー

スもあり、特定の努力を続け、解決までつなげる必要があります。次に、副読本「わたしたちの熊野市」の活用や囲碁教室、学校給食における「新姫」の使用などを通じて、児童生徒が郷土や地域について学び、理解を深めるとともに、ふるさと熊野市への愛情を育むことができました、としております。

次に重点施策3安全で安心な学校環境づくりでございます。資料につきましては、5ページとなっております。目指す姿は、防災ノートの活用や地域防災組織との防災訓練等を通じて、家庭や地域と連携して防災教育に取り組むことができる学校としております。指標といたしまして、地域防災組織等と連携した防災訓練等を全小中学校で実施といたしました。成果と課題につきましては、地域防災組織等と連携した防災訓練等を、小学校8校、中学校6校で実施しました。あとの2校につきましては、地域と調整ができなかったものでありまして、学校単独では実施しております。次に、地域や地域防災組織等と連携した防災訓練等を行うことで、課題を共有するとともに有事の際の行動の基盤づくりを行うことができました。さらに学校と地域防災組織等との連携を深めていく必要があります。学校防災対策推進研修会を開催し、災害時の避難所運営についてシミュレーションしたり、避難経路や避難場所の有効性と課題を把握することができました。研修会には地域住民の参加もあり、学校・地域がともに取り組むことで連携を図ることができました。児童生徒が直接校区内を歩いて危険箇所等を調べ、防災マップを作成することで防災意識を高めることができました。以上、学校関係の重点施策を説明、報告させていただきました。ご意見、ご質問等ございましたら、よろしく願いいたします。

倉本教育長

いじめに関する保護者を対象としたアンケートでございますが、こちらにつきましては、学力・学習状況調査の結果と体力テストの結果とともに教育委員会のウェブページにすべて掲載させていただいております。また、ここにいじめ認知件数という言葉がありましたが、認知件数というのは、いじめの発生件数ではなくて、学校がキャッチすることができた件数でございます。

大久保委員

学力向上の推進についての事業ですが、29年度と30年度と同じ学年で比較した場合、ずいぶんアップしております。プラス1%目標だったものが、その分上がっているということは、それだけ各学校での取組が定着してきているのではないかと思います。これは、このまま続けていってほしいと思います。

河上市長

今、大久保委員からの学力向上の推進の指標の話については、「めあての提示」と「振り返りの実施」の項目が1%以上伸びているとい

うことで、お褒めの言葉をいただいているのですが、私はこの指標については、中途半端なという不満を持っています。30年度について、みえスタディ・チェックの対象となる指標は、手段となる指標だと思っていて、結果の指標ではないので、手段が向上しても学力が本当に伸びているかどうか分からない所があるので、この項目自体も必要だと思いますが、結果が分かる指標も必要ではないかということで、30年度の指標はスタディ・チェックになっていますが、2つの指標でチェックするのも必要ではないかと思います。

岡本総務課長
河上市長

他にご意見等ございませんでしょうか。

いじめの認知件数が23件で全て解消済になっているとありますが、一方でアンケートからは、事案を特定できないケースもあるということで、100パーセントいじめを把握することは難しいということなんですけれども、30年度においては、出来る限り幅広くいじめの定義を緩くするなど、ほんの些細なことでも、いじめと考えられるものについては、件数として認識する努力は必要ではないかと思えます。

倉本教育長

市長が今おっしゃったいじめ認知件数についてですが、現在学級満足度調査 QU 調査というものを予算化して各学校で実施しております。学級満足度調査 QU 調査によって、学校の子どもの満足度それから課題が学級集団から離れてしまっている、そういったものが可視化できるものですから、これを活用して、いじめの未然防止に役立てております。もう1点はアンケートですが、子どもたちに対して、日常生活の中で、例えば友達から、場合によっては大人からとそういったことが正直に書けるように工夫したアンケート調査を年3回実施しております。なおかつ日常の観察もということでもらっているのですが、これもまだ十分ではありません。アンケートについて、書いてきたけど誰が書いたか分からないようなケースもございますので、これを特定するための努力はするのですが、最後まで特定できない場合がございます。30年度はより未然防止に努めるとともに、アンケートの内容をもう一度精査するなど、そういった形で進めて行きたいと思えます。

もう一つの学力向上の部分ですが、今徹底して各学校に指示しているのが、めあて振り返りの徹底ということと、各授業で読解力の育成を図るということ、家庭学習の充実を徹底して進めております。30年度もこの3点を中心に進めて行きたいと思っております。

河上市長

いじめ問題は完全に100パーセント把握して、100パーセント解決するのは難しい問題なので、引き続き努力をしてもらうしかないなということでございます。それから重点施策3で安全で安心な学校

環境づくりについてなんですが、この総合教育会議では、こういうソフト面の取組が中心となって来るので、指標として、防災訓練を小中学校で実施ということについての異論はないのですが、一方で安全で安心な学校環境づくりで言えば、ソフトだけでなくハードも必要なんです。指標として載せる必要はないんですが、参考資料として、学校の耐震化に加えて、残っている窓ガラスのフィルム貼りとか建具についての補強についての状況も参考として載せていただくほうが、安全で安心な学校環境づくりはハード・ソフトの両方だと思いますので、次回の資料作りでは工夫していただくようお願いいたします。それともう一つ、指標そのものは悪くないのですが、3ページの一番下の行の「防災意識を高めることが出来た」というところは、ここは結果なんですよね。防災訓練は、「手段」なんです。手段で結果が本当に導かれているのかどうかということについて、よく考えてもらうほうが良いかも知れないですね。

岡本総務課長

ありがとうございました。それでは、社会教育関係に進めさせていただきます。4ページになります。重点施策4 青少年健全育成関係ですけれども、子どもの読書活動の推進であります。資料につきましては、8ページから11ページとなっております。目指す姿は、子どもが未来への夢や目標を抱いて自らを高めるために、自ら進んで読書に親しんでいる。指標としまして、1カ月間に1冊も本を読まなかった割合が小学生2%以下、中学生11%以下といたしました。成果と課題でありますけれども、平成30年2月に、市内の全児童生徒を対象に読書習慣に関するアンケートを実施した結果、同年1月に1冊も本を読まなかった割合は、小学生全体で5.4%、中学生全体で9.3%でした。学年が進むにつれて不読率が高くなる傾向があります。この結果等を踏まえて、学校や図書館だけでなく、家庭を巻き込んだ取組を推進する必要があります。

次の重点施策5 生涯学習からですけれども、生涯学習環境の整備であります。資料につきましては、12、13ページとなっております。目指す姿は、市民一人ひとりが生涯にわたって学習や文化芸術等に親しみ、自己実現を果たしながら生きがいを感じ心豊かに生活しています。指標としまして、熊野市立図書館の企画事業、各種生涯学習事業の評価が4.5（おおむね満足）以上といたしました。成果と課題でございますが、市立図書館の企画事業、各種生涯学習事業の評価は、4.69と目標数値を上回っているものの、参加者が固定化される傾向が見受けられます。これまで参加していなかった人にも幅広く参加していただくために、新たな企画を検討する必要があります、とさせていただきます。

5 ページに入らせていただきます。生涯スポーツから重点施策 6 生涯スポーツの普及と促進でございます。資料につきましては、13、14 ページとなっております。目指す姿は、熊野市内で各種競技が活発に開催され、多くの市民が生涯スポーツを楽しんでいます。指標といたしまして、まちづくりアンケートにおいて、スポーツ施設や公民館等で週に 1 回以上スポーツを楽しんでいる割合が 10%以上といたしております。成果と課題でございますが、スポーツ施設や公民館等で週に 1 回以上スポーツを楽しんでいる割合が、平成 29 年度のアンケート結果で 12.6%と、目標としている 10%を達成することができました。総合型地域スポーツクラブにおいては、健康増進のためのエクササイズなども含めて、市民のニーズに応じたメニューの充実が必要です。すでに実施しているストレッチ教室などは、女性や高齢者に人気が高く、今後より一層の充実が求められますが、開催場所を確保することが課題となっております。体育協会やスポーツ少年団においては、加盟団体相互の連携を深めて積極的に自主事業を行うなど、活動の活性化と組織強化が必要です。今年度で開催される高校総体、33 年度に開催される国体の開催に向け、諸準備を進めるとともに市民への啓発活動を強化するなど、開催の機運を高める必要があります。以上が、重点施策 6 生涯スポーツの普及と促進の説明でございまして、社会教育関係の重点施策 3 点をご説明申し上げます。ご質問やご意見等ございましたら、よろしくお願いいたします。

河上市長 子どもの小学校、中学校の不読率というのは、熊野市は学年が進むにつれて、不読率が高くなる傾向がある。これは、他の地域とか全国的にも同じなんですか。

倉本教育長 近隣の教育長との話し合いでは、同じような傾向にあるということです。ただ、県全体や全国的なデータは、現在手元にございません。

河上市長 直感的には、同じような傾向かなという気がしないでもないんですが、この 5.4 と 9.3 の絶対的な評価が難しいですね。他との比較がないと。目標に対して上がったか下がったかするのは一つの評価の手法です。もう一つは、県平均とか全国平均と比べてどうかというのも比較しないと評価しづらいところがあるので、ぜひその辺を調べておいていただけるとありがたいと思います。

岡本総務課長 資料の 10 ページに、小学生と中学生の不読率についての国の値が示されております。平成 29 年度の国の小学生の不読率は 5.6 パーセント。中学生は、15.0 パーセントとなっております。

河上市長 わかりました。ありがとうございます。

大久保委員 今の中学生は、とても忙しいですよ。部活なんかで、とても本を読む雰囲気にならないんじゃないかなという気がします。土日ほとんど、部活動の練習試合とかに出ることが多いようです。

河上市長 乱暴な推論をすると、学調で小学生の全国平均より低い科目が多くて、中学校で追い超したりするんで、この読書不読率の低さは、ひょっとしたらそういうことがあるのかなという気がします。これは非常に乱暴な推論です。

本をいかにして、言葉は悪いですけども、読ませるかということとは大きな課題だと思います。

大久保委員 強制的に読むように言っても、読めるものではありませんし、子どもたちが本を読みたいというきっかけをどういう風に作るかが課題じゃないかと思います。

岡本総務課長 ありがとうございます。それでは、平成30年度の主な重点施策に入らせていただきます。6ページをご覧ください。平成30年度の重点施策は、平成29年度からの継続性を重視し、課題も反映しつつ、6項目であったものを5項目にまとめさせていただいております。従来の重点項目「豊かな心の育成」と「安全で安心な学校環境づくり」を平成30年度は1つにまとめ、「保護者や地域との連携」で、サブタイトルとして「子どもたちが安心して学べる学校にするために」としております。まず最初に、7ページの重点施策1学力向上の推進についてでございます。1つの重点施策の説明が終わるたびに、ご質問やご意見等をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

7ページの重点施策1学力向上の推進でございます。資料につきましては、1ページから4ページとなっております。取組の方向性につきましては、指導主事等を派遣し、各学校における校内研修会や授業研究をより充実させ、質の向上を図り、授業改善を進めます。主な取組内容でございますけれども、平成29年度と同様、学力向上支援事業、学力向上推進研修事業、地域未来塾事業、グローバル体験事業、新しくICT教育推進事業を設けております。内容としましては、大学や企業等、および校長代表、教育委員会担当で構成する「ICT教育推進委員会」において、今後のICTの具体的な活用等について協議を進めます。県内の大学等と連携し、プログラミング教育に関する教職員の指導力向上に向けて研修を進めます、としております。めざす姿といたしまして、恒常的に授業改善に取り組み、それぞれの力量を高め合おうとする職員組織。目標を持って授業に臨み、深い学びと自己の変容を実感している児童生徒といたしております。指標といたしまして、2回目の「みえスタディ・チェッ

ク」の結果において、県平均を基準として 2 ポイント以上の伸びが見られるといたしております。以上が重点施策 1 の学力向上の推進でございます。ご意見等ございましたら、よろしくお願いたします。

北野委員

地域未来塾についてなんですが、私は、非常に注目している事業として、参加者をいかにして増やしていただくかということを考えていただきたいと思うんです。熊野市出身の学生が、子どもに直接教えて、教える喜びをそこで知ることが出来るということと、もう 1 点は、4 年生から 6 年生までで、これからどんどん学力が伸びて行く段階で、「振り返り」をするために非常に良い事業だと思いますので、保護者の皆様に知っていただき、この事業を広めてもらい、推進していただきたいと思います。

岡本総務課長
倉本教育長

関連して何かございませんでしょうか。

地域未来塾事業につきましては、海岸部の比較的児童数の多い学校を対象に市民会館等で実施しておりますが、山間部のなかなか参加できない子どもたちについては、例えば、五郷小学校等で実施するわけなんですが、全校児童数が少ないことや社会スポーツを行っている子どもや塾に通っている子どもがいるので、参加率が上がってこない状況です。上げる努力はしているのですが、なかなか上がらないという状況がございます。引き続き努力はしてまいります。

河上市長

少し乱暴な考えかも知れませんが、考えないといけないのはやっぱり、少し学習の進度が遅れている子どもたちのフォローをする場があった方がより良いのではないかという気がするんです。今、教育長が言われたように、保護者の方が頑張って塾などへ通わせて、学力が高い子どもの場合の受入れは否定してはいけないのですが、対象児童をもう少ししぼることも必要ではないかと思います。可能であれば、全員参加の前提で、参加していただいた方が良いのではないかという児童をしぼるというやり方が良いのかどうかは、学校現場の感覚が私はないので分からないのですが、全児童を対象にして、参加率を求めても意味はないのかなと思います。効果の判定としては難しい面もありますので、そういう辺りも考えていただいた方が良いのかなと思います。その方が学力を伸ばすという点では、効果があるかなと思いますし、本当の意味での参加率になるという気がします。

倉本教育長

地域未来塾の課題としまして、本当に参加してほしい子どもには、なかなか参加してもらえないという状況です。ある一定の学力のある子どもの参加が多いということがあります。もう一点は、毎週土曜日に教員OBがボランティアで土曜塾「くまの学び舎」を市民会

館や文化交流センターで実施していただいております。こちらの最初の立ち上げの理念というものが、やはり学力に課題のある子どもたちや塾に行っていない子どもたち、塾に行きたがらない子どもたちを集めて、学力を伸ばそうという趣旨だったんですが、始めてみたところ、参加する子どもは、ある一定の学力のある子どもたちでした。ここへ来て、少しそういう傾向よりも学力に課題のある子ども又は、高校入試を控えて頑張らなくてはいけない子どもが少しずつ増えて来ました。何とか各学校で子どもたちの背中を押す手段や保護者にそういった意識を持っていただける手段を考えてまいりますので、結果はどうなるか分からないですが、努力してまいります。

北野委員

いろいろな考え方の保護者の方もいらっしゃると思いますので、難しいとは思いますが、教育長のお知恵を拝借いたします。

大久保委員

勉強にしても他のものにしても、本人にやる気があるかないかが非常に大きい問題だと思います。やる気のない子どもに強制しても力が付かないと思います。いかにやる気を出させるか、勉強しようかなという気にさせられたら良いんですが。これには本人の問題もあるかと思うんですけども、やはり、家庭も含めて皆で考えて行く必要があるのではないかと思います。中には、勉強について強要しない保護者もいると思います。そのような環境を少しでも減らせれば良いなと思います。

北野委員

非常に有意義な事業だと思いますので、よろしく願いいたします。

岡本総務課長

ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

大久保委員

今年度の取組にICT教育の推進事業があるのですが、これから推進委員会で具体的な話をして行くということですが、教育委員会としては、どの辺りまで進めるという具体的な目標はあるんですか。

倉本教育長

平成32年度からプログラミング教育が必修となります。すでに昨年度から三重大大学のサテライトの協力を得て、新鹿小学校、金山小学校で先行実施をしているんですが、最低限の学習指導要領に示されている内容は網羅するという事、そして、一人一人が将来にわたってプログラミング的思考を持って、コンピューターを使いこなせることができるように育てて行きたいと思っております。大学や企業及び校長代表、教育委員会担当ということになっておりますが、大学は三重大大学のプログラミング専門の教授をお願いすることになっております。あと、校長代表につきましては、ICTについて堪能な校長、そして、企業につきましては、今検討中でございます。

河上市長

私からも教育委員会に注文を出してございまして、プログラミング

教育をやったり、ICT機材を導入すれば、一定程度のプログラムを作れたり、機材を動かせることにはなると。ただ、どこまでやるかということのですね、目標を掲げたICTの推進をしないといけないと思います。ただ単にプログラムの知識があるだけではなくて、実際にプログラミングを作って絵を描けるとか、小学生ならこの辺まで、中学生ならこの辺までというような目標を立てたうえで、ここに書いてあるような活用策が初めて生きてくるのではないかという風に思っています。なので、今、推進委員会を設けていただいて議論をするんですけども、実際にはですね、こういうICTの専門家が熊野市にはいませんので、外部の人材にいろいろなアドバイスを受ける態勢を探しておる状況です。ICT関連の企業であるとか学習塾など大手の会社からICT要員の人材派遣を頼むとか、そういう事も含めて、このICTの推進はしっかり注視をさせていただきながら、教育委員会で頑張っていただきたいと思います。

岡本総務課長

ありがとうございました。次に移らせていただきます。8ページをご覧ください。重点施策2保護者や地域との連携、サブタイトルが子どもたちが安心して学べる学校にするために、でございます。先ほども申し上げましたけれども、昨年度までの重点施策 豊かな心の育成、安全で安心な学校環境づくりの内容も盛り込んでおります。資料につきましては、5ページから7ページとなっております。取組の方向性は、いじめの未然防止や防災教育の充実など、各学校における様々な課題に対応するため、学校・家庭・地域社会の連携を密にし、地域に開かれたより良い学校づくりを進めます。具体的な取組内容といたしまして、いじめ対策事業と新しく項目を設けさせていただきまして、コミュニティ・スクール推進事業。内容としましては、2つの学校運営協議会新鹿小・中学校、五郷小・中学校を設置し、地域と連携・協働を進める中で、地域とともにある学校づくりに取り組みます、としております。次に、学校防災対策推進事業、防災教育・各種訓練等の充実、地域人材等の活用でございます。めざす姿といたしまして、地域との密接な連携のもと、課題の克服に取り組んでいる学校。地域の方々と関わり、見守られながら、安心して学校生活を送る児童生徒。指標といたしまして、全小中学校で、地域と連携した防災訓練や地域人材を活用した授業を年2回以上行う、といたしております。ご意見、ご質問等ございましたらよろしくお願いたします。

河上市長

先ほどの29年度の振り返りのところでも言いましたが、子どもたちの意識を高めることが必要なんです。意識が高くなかったら、知識を持たないので。実際に地震が起きた時に、自分がどういう行動

を取れるかということが、はっきり分かっているかどうかポイントになるのではないかと思います。いくら訓練をしても、言われた通りでしかやらない訓練とか自分自身の身を自分で守ることができないので、指標としては手段として置くのはこのままで良いのですが、実際に自分で行動を取れるようになったかという成果や結果の数値指標もできたら取っていただきたいと思います。手段の指標ばかりやって、毎年 2 回こういうことをなりました、ということで本当に良いのかが難しいので、もう少し工夫をしていただけたらと思います。

倉本教育長

一昨日、市の小中校長会がございまして、子どもたちの命を守るという視点の防災訓練につきましては、何月何日の何限目に、どこから火が出て、又は地震が来てという決まった形で行われることが多い避難訓練を、例えば、避難訓練日を児童・生徒等に通知せず、管理職だけ把握しておいて実施するとか、地域実態を踏まえて安全に十分に注意をしないといけないのですが、登下校時に実施してもらうように各学校に依頼をしております。これは、先ほど市長がおっしゃったように、子どもたちがどこにいても、自分自身の命を守るという行動に移せるかどうかの問題であってですね、各学校でそういった避難訓練へと少しずつシフトしてもらっています。

岡本総務課長

ありがとうございます。それでは、9 ページの重点施策 3 子どもの読書活動の推進に移らせていただきます。資料につきましては、8 ページから 11 ページとなっております。取組みの方向性といたしまして、子どもの読書活動は言葉を学び、豊かな感性の育成や表現力・創造力の向上、さらには健全育成にとって欠くことのできないものであることから、多くの子どもが様々な機会において本に接し、自ら進んで読書の楽しみを味わうことのできる環境の整備を行います。具体的な取組内容といたしまして、子どもの心づくり事業（読み聞かせ）、学校との連携、ボランティア活動活性化事業、読書感想文コンクール、蔵書整備事業でございます。めざす姿としましては、子どもが未来への夢や目標を抱いて自らを高めるために、自ら進んで読書に親しんでいる。指標といたしましては、1 か月間に 1 冊も本を読まなかった割合が小学生 2%以下、中学生 9%以下としております。平成 29 年度の小学生の実績は、5.4%、中学生は 9.3%となっております。以上ご説明させていただきました。ご意見、ご質問等ございましたらよろしく願いいたします。

大久保委員

資料の 8 ページなんですけど、いろんな事業を実施してやられているようなんですけど、「おはなしなあに」の 29 年度の参加人数は 285 人参加とされていますけども、これは子どもの数ですか、親

も含めた数なんですか。あと、285人の中で、今は市外の方もたくさん来ていただいているということなんですが、このうち熊野市の子どもはどのくらいいますか。

濱中社会教育課長 285人については、子どもと大人を合わせた数でございます。市内の子どもの数については、今手持ちに資料がございませんので、後ほど報告させていただきます。

河上市長 これは、どうやって読書をしてもらうか、きっかけを作ってあげないとなかなか声をかけても自ら本を読んだりしないと思うんですけども、読書活動の推進で、学校とか自治体レベルで有名な所ってないんですか。文科省に問い合わせれば、そういう所があるんじゃないですかね。そういう所でどういうことをやっているかというのを素直に先進地から学ぶことも必要なんじゃないかなと思います。中学生の不読率が全国平均よりはるかに低いには、驚いているんですけど。どういう風なきっかけで子どもたちが本を読むことになるのか、先進地事例から学んで、出来ることからどんどんと取り組んでいただけたらと思いますので、ぜひ一度調べてみてください。

岡本総務課長 それでは、次の施策に入らせていただきます。重点施策4 生涯学習環境の整備でございます。資料につきましては、12ページ、13ページです。取組の方向性は、生涯学習推進の拠点となる市民会館及び文化交流センター・図書館機能の充実を図ります。また、多くの市民が生涯学習に触れることのできる機会を提供するとともに、生涯学習講座修了者等の熊野文化協会への加入促進など講座等を通じて得た知識や技術を地域に還元することで生涯学習環境の充実を図ります。具体的な取組内容につきましては、昨年と同様ですが、引き続き各種生涯学習講座を設けております。こちらの事業内容の後段ですが、ニーズに基づきスクラップアンドビルドの視点に立って、新たな講座の開設を検討いたします。次に、市民文化祭、まちの人材活用事業、読書推進事業となっております。めざす姿は、市民一人ひとりが生涯にわたって学習や文化芸術等に親しみ、自己実現を果たしながら生きがいを感じ心豊かに生活しています。指標といたしまして、熊野市立図書館の企画事業、各種生涯学習事業の評価が4.8（おおむね満足）以上としております。昨年は、4.5以上で少しハードルを上げております。以上、ご説明させていただきました。ご質問等ありましたらよろしく願いいたします。

高見委員 まちの人材活用事業なんですが、幼稚園・小学校へ25回、25名の派遣になっておりますが、このあげられている中で、どの項目が派遣されたのか教えていただけたらと思います。

倉本教育長 お答えします。まちの人材活用事業につきましては、いろんな分野で技術、スキルを持った人たちを社会教育課で登録しております。公民館や学校に派遣するということになっているんですが、主に学校に派遣するということが多い状況となっております。今年度の課題としては、市民の方々に、こういう事業があるということを周知徹底することを教育委員会で話し合っております。学校が、手話ですとか太鼓、人権教育など講師を招聘することが多い状況となっております。1回あたり4,000円の講師料をお支払いしております。

高見委員 せっかくこんなにたくさん登録していただいていますので、たくさんの方に知っていただいて、小学校などでやることによって、子どもたちが、「今日、学校でこんなことしたよ」と保護者に話をすることによって、広がって行くのかなという部分もあると思いますので、どんどんいろんな人材の方を活用していただきたいと思います。

岡本総務課長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

なければ、最後の11ページの重点施策5生涯スポーツの普及と促進に移らせていただきます。資料につきましては、13ページ、14ページとなっております。取組みの方向性は、関係団体と連携して生涯スポーツの普及と促進を図り、その取り組みの一環として、今年度実施の「全国高等学校総合体育大会」を成功させます。また、平成33年度開催の三重とこわか国体に向けて、開催機運を高めつつ、多くの市民の協力を得て、開催準備を進めます。具体的な取組内容につきましては、市民健康スポーツ祭の開催、スポーツ推進委員協議会活動の活性化総合型地域スポーツクラブの育成事業、スポーツ少年団育成事業、高校総体の開催及び国体開催体制の構築事業となっております。

めざす姿といたしまして、市民一人ひとりがライフステージに応じてスポーツに親しみ、週に1回以上スポーツを通じた健康づくりやふれあい交流に取り組んでいます。指標といたしまして、まちづくりアンケートにおいて、スポーツ施設や公民館等で週に1回以上スポーツを楽しんでいる割合が13%以上としておりまして、平成29年度の結果は12.6%でございました。以上、重点施策5のご説明をさせていただきました。何かご質問等ございましたら、よろしく願いいたします。

河上市長 中学校のクラブ活動で、人数の多い野球とかサッカーとか単独でできない学校が圧倒的に多くて、木本中学校と有馬中学校以外は、チームスポーツができない状況になっていると思います。そういう場合、子どもたちがどうしても野球がしたい場合に、他の中学校に越境入学するようなことはあるんですか。

倉本教育長

同じ市内で学校を移ることを指定校変更と言います。市町をまたぐことを区域外就学と言います。例えば、柔道のクラブがないために山間部の学校から木本中学校へ来るとか、ラグビーをやりたいために尾鷲から木本中学校に来るとか、そういったケースがございます。部活動につきましては、例えば、有馬中学校は2年間 団体が組めない、また、チームとして成立しない場合は、その年は廃部しております。そういった形のルールを木本中学校も今検討しております。ただ、合同チームでも中体連の大会に出られる規定がございます。ただ、野球ですと木本中学校と阿田和中学校と一つのチームとして、試合に出ています。ですから、なかなか人数が揃わなくても廃部するという事は難しいです。保護者のニーズもありまして。その辺りは、少しずつ保護者の理解を得て、先を見た取組が必要だと考えております。

河上市長

私自身は、子どもたちが、自分がやりたいスポーツはやらせてあげた方が良いでしょうと思います。ただ学校でチームスポーツが成立しない場合に、日常的に他の学校と合同練習することは難しいので、スポーツ推進委員協議会が、総合型地域スポーツクラブの協力が得られるのであれば、クラブ活動と位置付けるかどうかは制度的に分からないですが、基本は子どもたちが、やりたいスポーツがどこにいても出来るようにしてあげられるような仕組みが既存の学校の枠組みを越えてでも考える時期に来ているのではないかなと思います。問題提起だけで解決策を私はまったく持ってないのですが、考えていただく必要があるのかなという風に思います。強い意見ではないんですが、ぜひご検討いただけたらと思います。

大久保委員

今は団体競技の野球であるとかバレーであるとか、夏の大会は1年生から3年生まで揃っていますので、何とか出来ています。新人戦になると3年生で減ってしまうので、チームを組めない学校が多いんですよ。教育長が言われたように合同チームを組むという方式を今取っているようですけども。しかも今は、子どもの要望が多様化しています。例えば、入鹿の子どもが野球をやりたいとか、有馬の子どもが陸上やりたいとか、子どもの要望が多様化して、部活動の維持について難しい面もあるようですね。

河上市長

私の方は、自分の問題意識が出ているだけで、実際には難しい状況がたくさんあるんだろうなと思います。子どもたちがやりたいスポーツを一人一人が完全に出来るようにするには、おそらく保護者が相当頑張らないと難しいと思います。これまでやってきたスポーツが出来なくなることは、子どもにとって非常にさみしい気持ちになるでしょうから、これまでやってきているスポーツ種目について

は、なるべく学校の枠組みを越えてでも出来るようにしてあげるべきかなという問題意識提起で、今すぐやって下さいということではなくて、どういう事が課題で問題としてあるのか、それらの整理をしていただけたら、ありがたいなと思います。

岡本総務課長

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

なければ全体を通してでも結構ですので、何かありましたらよろしく願いいたします。

岡本総務課長

ないようですので、事項書2の(3)その他でございます。事務局からですが、次回開催予定は、10月を予定しております。平成30年度重点施策の進捗状況及び平成30年度の方角性について、などとなる予定でございます。

委員の皆様そして市長からいろんなご意見をいただきました。これまでの成果、達成、課題も踏まえてこれからの事業に反映させていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、これをもちまして平成30年度第1回熊野市総合教育会議を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。